

二千年の歴史さんぽ

熱田

名古屋港



河和

河和

《特別展》

海たび

尾張・知多の海とひとびと

2018. 7.14(土) ≫ 9.17(月祝)

名古屋市博物館

開館時間 | 9:30~17:00 (入場は16:30まで)
休館日 | 毎週月曜日・第4火曜日(祝日の場合はその直後の平日)、
但し8月13日(月)は開館

入場料 | 一般800(600)円 高大生600(400)円 中学生以下無料

※()内は前売および20名以上の団体料金。 ※前売券は7月13日(金)まで販売します。
※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニエロキップを利用してのご来館は100円割引。
※マナカを使用してチケットをご購入の場合は当日料金から100円割引。
※身体等に障害のある方および障害者の方々は、手帳または受給者証の提示により、
本人と介護者2名まで当日料金の半額になります。
※各観覧は重複してご利用していただくことはできません。
◆前売券は主要プレイガイド、主なコンビニエンスストア、チケットぴあ(Pコード=769-014)、
ローソンチケット(Lコード=43127)、イーブラスなどでお求めいただけます。

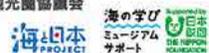
〒467-0806 名古屋市長瀬区瑞穂道1-27-1 TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636
ホームページ <http://www.museum.city.nagoya.jp/>
おでかけは公共交通機関で、名古屋駅から17分(地下鉄桜通線・名古屋～桜山の駅乗換間)
地下鉄桜通線「桜山」下車、4番出口から徒歩5分

主催 | 名古屋市博物館、毎日新聞社、メ〜テレ

協力 | 船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

日間賀島観光協会 知多半島観光協議会

【上から】鳥居屋「名古屋港」、新入道/尾張船問 白瀬屋/尾張・知多の海に開港する長年 旗高屋/「海・しほび」、名古屋市歴史民俗資料館/大船渡 吉野屋/知多の海とひとびと(尾張知多地区)、
豊洲美術館/尾山古瀬水浴場 三井物産/尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場 尾山古瀬水浴場



内海

篠島

師崎

報道資料

PRESS RELEASE

伊勢湾の奥部に臨む尾張は、古来より豊かな魚介・海藻類や塩を産し、さらに海上交通で繁栄してきた、海に育まれた地域です。海に関わる古代史や、漁撈、祭礼など、特色あふれる歴史文化が今も各地に残されています。

今回の特別展は、尾張・知多地方の海の文化を知り、楽しみ、親しんでもらうきっかけにしたいと、考古学と民俗学の学芸員 2 人が共同で企画しました。「行ってみたくなる海の歴史散歩」をコンセプトに、名古屋周辺から知多半島、島々まで広がる海の世界をご案内します。(展示件数 約 300 件)

特別展の特徴

(1) 2000年にわたる海の文化を紹介

伊勢湾に面する地域の海の文化を特集。旅を体感できる展示となるようテーマ別、地域別に展示を構成。体験コーナーや記念写真スポットなど、楽しく展示を観覧できます。

▶くわしくは2～8ページ

(2) 海にもとづく地域の文化が分かる

古代氏族「尾張氏」の海民伝承、海上交通、海に関する祭礼、特色ある漁撈など、今も各地に残されている歴史文化から尾張・知多地方の海に育まれた地域色を明らかにします。

(3) 夏休みに向けた豊富なイベント

子ども向けの企画を中心に、「みる」「きく」「でかける」「体験する」に分けて、盛りだくさんのイベントを実施します。知多半島の観光ブースの出展も予定しています。

▶くわしくは9ページ

展覧会情報

名称	特別展「海たび 尾張・知多の海とひとびと」
会期	平成30年7月14日(土)～平成30年9月17日(月・祝) (開室日数56日) 休館日:月曜日(祝日の場合は翌火曜日)(7/17・23・30、8/6・20・27、9/3・10) ただし8/13は特別開館、毎月第四火曜日(7/24、8/28)、
会場	名古屋市博物館1階 特別展示室・部門展示室
主催	名古屋市博物館 毎日新聞社 メ〜テレ
協力	船の科学館「海の学びミュージアムサポート」 日間賀島観光協会 知多半島観光圏協議会
観覧料金	一般 800(600)円、高大生 600(400)円、中学生以下無料 ()内は前売・20名以上の団体

※前売券は7月13日(金)まで、名古屋市博物館、主要プレイガイド、主なコンビニエンスストア、チケットぴあ(Pコード:769-014)、ローソン・ミニストップのローソンチケット(Lコード:43127)、イープラスなどで販売。※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用してご来館の方は当日料金から100円割引。※マナカでお支払いの方は当日料金から100円割引。※身体等に障害のある方および難病患者の方は、手帳または受給者証の提示により、本人と介護者2人まで当日料金の半額。※各種割引は重複してご利用いただくことはできません。

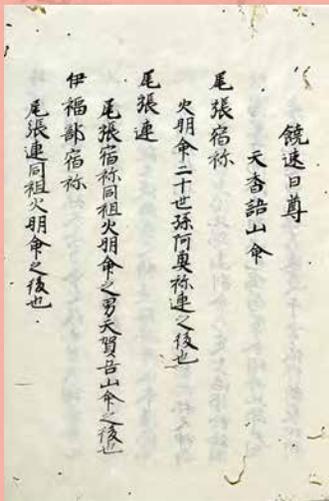
〈本展覧会に関するお問い合わせ〉

名古屋市博物館学芸課 ▶企画内容:藤井康隆、長谷川洋一 ▶広報資料提供:竹内弘明、竹内智哉
〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通一丁目27-1 TEL:052-853-2655 FAX:052-853-3636
e-mail:ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp web:http://www.museum.city.nagoya.jp/

1 海からはじまる古代史

古代の尾張を統治した氏族「尾張氏」は、漁撈や海上活動に携わる「海部氏」と同族関係を結んでおり、海を支配するひとつとでもありました。

古代に海辺の丘陵だった大高・名和や、知多半島先端部の師崎一帯は、日本武尊から預かった神剣・草薙剣を祀り熱田神宮を創建した宮簀媛、その兄で日本武尊の東国征伐に水軍を率いて従った建稲種にかかわる伝説の舞台です。これらの地には海を支配し、やがて濃尾平野全体を掌握する大豪族「尾張氏」にまつわる由緒正しい神社や出土品が残されています。



『新撰姓氏録』(名古屋市蓬左文庫蔵)
古代豪族「尾張氏」の祖先系譜が記載されている。



水上市子神社 (名古屋市緑区)

祭神は宮簀媛。この神社は彼女の屋敷があった場所と伝わる。



兜山古墳出土品 (名古屋市博物館蔵)

兜山古墳は、水上市子神社から近い名和の丘陵上にかつての海に臨んで立地し、尾張南部では最古の古墳の一つ。古代の尾張と海との関係が重要だったことを示す。



(上) 羽豆神社 (南知多町)

(下) 羽豆神社から望む師崎港

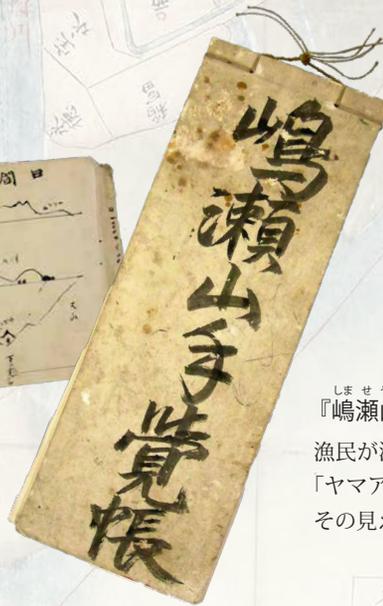
羽豆神社は東国征伐の帰路に海難で死んだ建稲種を祭神とする。



2 海の地理環境

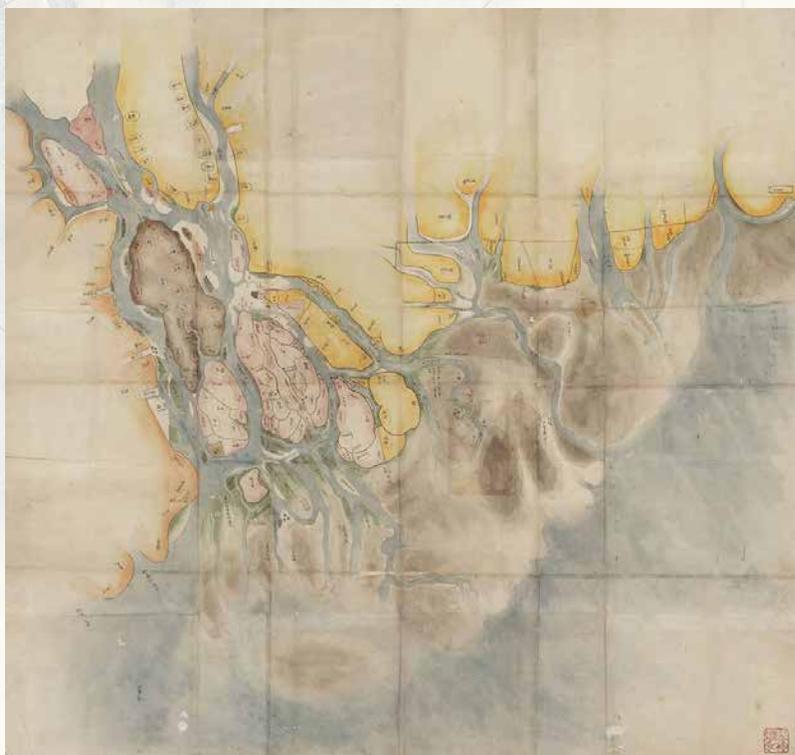
伊勢湾は、湾奥部に浅瀬が発達し、「浅海」を特徴とします。その特徴ある海の地形や環境に対応して、そこに生息する魚介類を捕る漁撈（漁業）や、船による水運が発達しました。

江戸時代～昭和の記録をもとに、名古屋周辺や知多半島の海底地形や漁場の地理的環境をみていくと、かつての海辺が現在どのように変わったかや、尾張・知多のひとびとのくらしが海の地理的環境と密接に関わって営まれてきたことがわかります。



しませやまておぼえちよう
『嶋瀬山手覚帳』（南知多町教育委員会蔵）

漁民が海上で船の居場所や漁場の位置を把握する「ヤマアテ」の目印となる山・岩礁などの地形や、その見え方などを覚え書きした帳面。



嶋海傳馬新田文宝元七年百匹分
禁田傳馬新田右同新
名古屋傳馬百匹分古井村古池新田
社覚文八申年

木曾川河口之図（名古屋市蓬左文庫蔵）

木曾川や庄内川の河口部に形成された干潟や海底の流路が描かれる。海底の地名も記されており、干拓が進む以前の海岸の姿を知ることができる。

3 尾張・知多の漁とくらし

明治時代の漁法・漁具に関する記録・絵図と、昭和期に使用された実物の漁具資料とを対照してみると、波が荒く水深もあり岩礁が多い知多半島南部と、穏やかで遠浅の砂地の海である尾張とでは、漁具の特徴や漁法、捕れる魚介の種類も異なります。

熱田や下^{しも}之^の一^{いっ}色^{しき}、豊浜などの地域の人々の生活のようすや各地の漁具から、尾張と知多の漁と魚介類の地域性を知ることができます。



松崎遺跡出土品（東海市教育委員会蔵）

現在の東海市一帯の海岸部では、古代から海にくらす人々が活動し、漁撈や塩づくり、海上交易などに携わっていた。



下之一色漁具資料（名古屋市博物館蔵）

現在の名古屋市中川区の下之一色は、昭和前半期まで尾張を代表する漁村だった。そこで使われた漁業用具から、かつて漁業で栄えた地域の様すがうかがえる。



ちようしゅうざっし

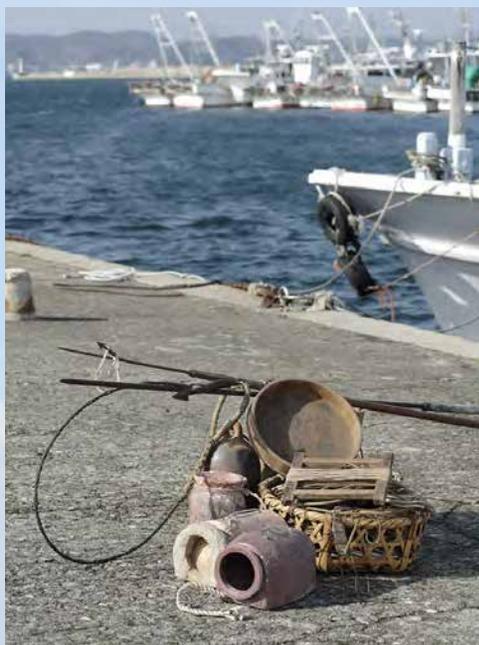
『張州雑誌』（名古屋市蓬左文庫蔵）

江戸時代に記された尾張・知多の地誌。産物として魚介類も記されており、江戸時代に名物とされていた海産物が分かる。

4 島々をゆく

知多半島先端部の眼前に位置する日間賀島・篠島・佐久島では、古代から現代まで伝統的につながる、特産の海産物を使った食文化や祭り、史跡や集落風景などをみることができます。その文化は、伊勢湾沿岸各地を渡りゆく広域ネットワークと、外部に積極的に出ていく外向性の強いひとびとによって育まれてきたものです。

海辺の暮らしと豊かな海産物、古くからの伝統と歴史性に恵まれた、島々をとりまく歴史と文化を紹介していきます。



日間賀島漁具資料（日間賀島資料館蔵）

日間賀島では現在の特産につながるタコ漁、フグ・タイ漁のほか、古代からサメ漁がおこなわれ、昭和期までは続いていた。



タコ壺漁で捕れたタコ（南知多町日間賀島）
日間賀島周辺の潮の速い海で育ちタコ壺漁で捕れた天然タコだけが、特産の「日間賀のタコ」と呼ばれる。



篠島神明神社（南知多町篠島）

つちのみや かんじょう
伊勢神宮内宮の土之宮を勧請してきた由緒正しい神社。伊勢内宮の遷宮と合わせて、その材木を譲り受けて神明神社も遷宮がおこなわれる。伊勢湾を越えた交流をよく表す神社といえる。

5 海の祭りと信仰

海上の怪異現象や海獣の接岸、海の荒れや天候など、ひとつとは海に対して、陸とは異なる人知の及ばない世界として畏れ敬い、信仰や祭礼の行事を伝えてきました。珍しい舟形の山車「舟車」を使った祭りや、海上守護の靈験あらたかとされる寺社への信仰などを、現在の行事・習慣や、江戸時代以来の記録や信仰資料の中に数多く見ることができます。

測り知れない異世界、生活の場であり幸福や恵みをもたらすものという、尾張・知多の沿岸部の人々にとっての海の二面性をご覧ください。



「又兵衛新々田前新開二入込候海獣ノ記」
(名古屋博物館蔵)
天保4年(1833)に尾張の新田にあらわれたアザラシの記録。
頭は猿、胴体は魚類の姿で描かれる。



(上) 鯛祭り (南知多町中須)
(下) 舟車 (南知多町教育委員会蔵)

巨大な張り子の鯛の神輿を海中に担ぎ入れる活力あふれる祭礼「鯛祭り」。その原形となる祭礼は遅くとも江戸時代末期から舟車を使っておこなわれ、明治時代に使われた貴重な舟車が現在も残る。



かいなん え ま
海難絵馬 (青峯山正福寺蔵)

三重県鳥羽市にある青峯山正福寺は、伊勢湾沿岸を中心に、関東から関西にいたる広い範囲で海にくらすひとびとから海上安全守護の信仰を集め、海難除けや海運繁栄を祈願した数々の絵馬やお札が奉納されている。



あおみねさん
青峯山の守り札・旗 (名古屋博物館蔵)

「青峯さん」と呼ばれて親しまれた青峯山正福寺は、名古屋周辺の漁民からも篤く信仰されていた。

6 海と遊び

「世界最古の海水浴場」をはじめ当地方の一大レジャーとなった海水浴、^{ふうこうめいび}風光明媚な南知多や篠島の観光など、海は「遊び」として生活に結びついていました。海水浴、観光、釣りなどのテーマから、楽しい尾張・知多の海の魅力を紹介します。



絵はがき「世界最古の海水浴場」(愛知県図書館蔵)
大野海水浴場(現常滑市)は、世界最古の海水浴場と称して人気を集めた。その歴史は、江戸時代以前から伝えられる「潮湯治」に求められる。



知多半島の観光パンフレット(北名古屋市歴史民俗資料館蔵)
知多半島は夏を中心に多くの観光客を集める人気の観光地である。特に明治以降、鉄道網が整備され、観光地として発展した。



南知多の海水浴ポスター(個人蔵)
鳥瞰地図絵師の吉田初三郎による観光ポスター。海水浴だけでなく風景や史跡名所も楽しめる夏の観光地として魅力が紹介された。

7 尾張・知多の湊と船

古代から近代までの湊^{みなと}では、しばしば古墳や寺社が海からのランドマークとなりました。尾張では熱田が古来より海上交通の主要拠点で、断夫山古墳^{たんぶさん}や元興寺^{げんこうじ}などが熱田湊のランドマークとして知られていました。

また、湊と水運によって結ばれた人・ものの行き来のネットワークは、江戸や大坂などの遠隔地や、河川を介した内陸部にも及んでいました。江戸時代にとくに活躍したのが熱田と内海の廻船問屋^{かいせんどんや}（海運商人）で、現在もそれらにかかわる史跡や品物を数多く見ることができます。



びようねんちゅうぎょうしりゃくえいしやう あつたのだんぶやまよりしおひをみるのず
尾陽年中行事略絵抄「熱田断夫山汐干見之図」
(名古屋市博物館蔵)

熱田湊のランドマークだった断夫山古墳にひとびとが登り、海の潮が引く景色を古墳に咲く桜とともに楽しんでいました。



篠部家廻船資料 (名古屋市博物館蔵)

内海の廻船問屋の道具類。大きな帆をかけ海を疾走した内海廻船の記憶を今に伝える。



はしけぶね
舳船模型 (名古屋市博物館蔵)

沖合に停泊する大型船と湊との間のつなぎや、内陸水路を往来して荷を運ぶのに使われた小型船。かつては名古屋の堀川などでもよく見られた。

きく

記念講演会 聴講無料・先着220名

「尾張・知多をめぐる海の文化」

野地恒有氏(愛知教育大学 教授)

日 時 | 7月14日(土) 13時30分~15時(13時開場)

会 場 | 名古屋市博物館地下1階 講堂

聴講料 | 無料 ※聴講には本展チケット(観覧済み半券も可)が必要です。

※当日9時30分より聴講整理券を展覧会場入口で先着順に配布します(観覧券1枚につき1枚限り)。

海のシンポジウム 聴講無料・先着220名

「海たび伊勢湾から大阪湾まで」

日 時 | 8月25日(土) 13時~16時(12時30分開場)

会 場 | 名古屋市博物館地下1階 講堂

講 師 | 河内一浩氏(羽曳野市市長公室世界文化遺産推進室主幹)

藤井康隆・長谷川洋一(当館学芸員)

聴講料 | 無料 ※聴講には本展チケット(観覧済み半券も可)が必要です。

※当日9時30分より聴講整理券を展覧会場入口で先着順に配布します(観覧券1枚につき1枚限り)。

ミュージアム・トーク (3回・各回30分程度) 聴講無料・先着100名

8月4日(土) 第1回「幻の名物^{モツオ} 藻魚を追え」長谷川洋一(当館学芸員)

8月11日(土) 第2回「海を渡りゆくひとびと」藤井康隆(当館学芸員)

9月1日(土) 第3回「沿岸部の信仰・怪異」長谷川洋一(当館学芸員)

時 間 | 11時~11時30分(10時30分開場)

会 場 | 名古屋市博物館1階 展示説明室

聴講料 | 無料

体験する

ハンズオンコーナー

「船絵馬・ミニ大漁旗を作ろう」

期 間 | 8月11日(土)~8月19日(日)の毎日

場 所 | 名古屋市博物館1階 特別展会場内

対 象 | 小・中学生(小・中学生は特別展観覧料は無料です)

定 員 | 各日、船絵馬は先着50名・大漁旗は先着20名

疑似体験コーナー「ヤマアテ」

漁師さんたちが広い海の上で自分のいる場所を特定するための方法「ヤマアテ」を疑似体験します。

期 間 | 本展会期中全期間

場 所 | 名古屋市博物館1階 特別展会場内

(高校生以上の方は特別展観覧券のご購入が必要です)

海のロープワーク体験 (各回定員30名、要事前申込)

海洋少年団による実演やお話の後、ロープワーク・手旗や、キーホルダー作りなどの体験をします。

講 師 | 中日海洋少年団

日 時 | 7月15日(日)、7月21日(土)の各日2回

1回目:10時30分~ 2回目:13時30分~ (各回、開始30分前に開場)

会 場 | 名古屋市博物館1階 展示説明室

対 象 | 小学生以上(1組につき2名。小学校4年生以下の場合は保護者の付き添いが必要です。)

参加費 | 無料

参加申込 | 申込期間中(6/1[金]~6/24[日])に、往復はがきまたは名古屋市電子申請サービス(<https://www.e-shinsei.city.nagoya.jp>)にて、参加希望の日時を必ず明記してお申し込みください。申込者多数の場合は抽選となります。

みる

海たび展探検ツアー (各回定員50名、計6回開催)

テーマを設定して、学芸員の解説を聞きながら展示を見学します。最後は展示の内容や学芸員の仕事などについて何でも聞ける質問タイムがあります。

講 師 | 藤井康隆・長谷川洋一(当館学芸員)

日 時 | 7月22日(日)①午前・②午後、8月13日(月)③午前・④午後

8月29日(水)⑤午前・⑥午後

午前の部(①③⑤) 10時30分~11時50分(10時開場)

午後の部(②④⑥) 13時30分~14時50分(13時開場)

テーマ | ①④⑤「古代の海の王とひとびと」

②③⑥「海の特産品ができるまで」

会 場 | 名古屋市博物館1階 展示説明室

対 象 | 小・中学生(小・中学生は特別展観覧料は無料です)

参加費 | 無料

でかける

知多半島観光圏協議会 観光案内ブース

知多半島各地の市町から現地と観光の魅力を伝えます。ご当地キャラクターも登場し、ふれ合えます。詳しくは名古屋市博物館ホームページをご覧ください。

日間賀島の海の歴史さんぽ (事前申込制
1回あたり定員40名)

学芸員の解説により、日間賀島資料館の展示を見学し、日間賀島に今も残る海にまつわる古くからの歴史や風景を訪ねます。

博物館発着バスツアー、日間賀島で地物海鮮の昼食つき、フリータイムあり。

講 師 | 藤井康隆・長谷川洋一(当館学芸員)

日 時 | 1回目: 7月27日(金) 2回目: 9月8日(土)

名古屋市博物館 9時出発、17時帰着予定

見学地 | 愛知県南知多町日間賀島

対 象 | 小・中学生(応募1口につき2名まで。小学生は保護者同伴が必要、未就学児の同伴不可)

定 員 | 合計80名(40名×2回)

参加費 | ひとり3,000円 最少催行人数 | 1回あたり30人

貸切バス・船、学芸員同乗、添乗員なし、昼食付。

参加応募・旅行条件等、詳しくは名古屋市博物館公式ホームページにて。

応募期間: 6月4日(月)~6月22日(金)

※参加には本展チケット(観覧済み半券可)が必要です。

【主催】「海たび展」実行委員会

【旅行企画・実施、参加申込み・参加費支払先】

愛知県知事登録旅行業 第2-1403号 旅行業務取扱管理者 坂口正活

株式会社 無限 旅行事業部 スターメモリー

愛知県知多郡南知多町大字大井字浜辺30番地の4

TEL: 0569-64-6800 FAX: 0569-64-6801

定休日なし 営業時間: 9:00~18:00

【お問い合わせ先】名古屋市博物館 TEL: 052-853-2655

申込みの取りまとめ先は、「海たび展」実行委員会です。抽選の上、当選者の情報を実行委員会より旅行会社へ引き渡します。

日間賀島資料館サテライト展示

期 間 | 名古屋市博物館での特別展「海たび」会期中

(詳しくは名古屋市博物館ホームページ参照)

会 場 | 日間賀島資料館

愛知県知多郡南知多町日間賀島東側83 TEL: 0569-68-2388

開館時間 | 9時~17時

休館日 | 水曜日(祝日の場合は開館)

入館料 | 無料

※身体の障害などにより特別なサポートをご必要とされる方は、事前申込みの事業は申込み時に、当日参加の事業は2週間前までに博物館にご相談ください。

広報用 作品画像・読者プレゼントチケット 申請書

名古屋市博物館特別展 「海たび」

平成30年7月14日（土）～平成30年9月17日（月・祝）

広報用画像の使用は、特別展「海たび」を紹介する場合に限ります。
 展覧会終了後の広報用画像の使用、または二次利用はお断りします。
 広報用画像を紹介する場合は、展覧会名・会期・会場・作品名・クレジットを必ず記載してください。
 広報用画像は全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせを行う場合は事前に申請の上、承諾が必要となります。
 掲載記事につきましては、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記のお問合せ先までお送りください。

貴社名	媒体名
〒 ご住所	
ご担当者名	所属部署
TEL	FAX
E-mail	

ご掲載・放映の予定日が決まっている場合はお知らせください。 年 月 日

【個人情報の取扱いについて】
 ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より本展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。
 許可なく第三者に開示することはありません。

作品画像を1点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、読者向けチケット(5組10名分まで)を提供します。 希望する 組 名分
希望しない

※原則として掲載紙・誌（webの場合は掲載アドレス通知のメール）が広報担当に到着し、確認させていただいてから発送いたします。

希望される画像の□に✓してください。

※資料名など写真のキャプションは記載のとおりに表示してください（改行は適宜行って構いません）

<p>1 □</p>  <p>尾張・知多の海に関する品々 名古屋市博物館蔵</p>	<p>2 □</p>  <p>絵はがき「世界最古の海水浴場」 愛知県図書館蔵</p>	<p>3 □</p>  <p>南知多海水浴ポスター 個人蔵</p>	<p>4 □</p>  <p>古墳時代の釣針（松崎遺跡） 東海市教育委員会蔵</p>
<p>5 □</p>  <p>鳥瞰図「名古屋港」 個人蔵</p>	<p>6 □</p>  <p>《特別展》海たび 尾張・知多の海とひとびと 展覧会ロゴ</p>	<p>7 □</p>  <p>展覧会チラシ</p>	

お問い合わせ先 名古屋市博物館 学芸課 特別展「海たび」広報担当：竹内弘明、竹内智哉
 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1 Tel 052-853-2655 / Fax 052-853-8400
 E-mail : ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp